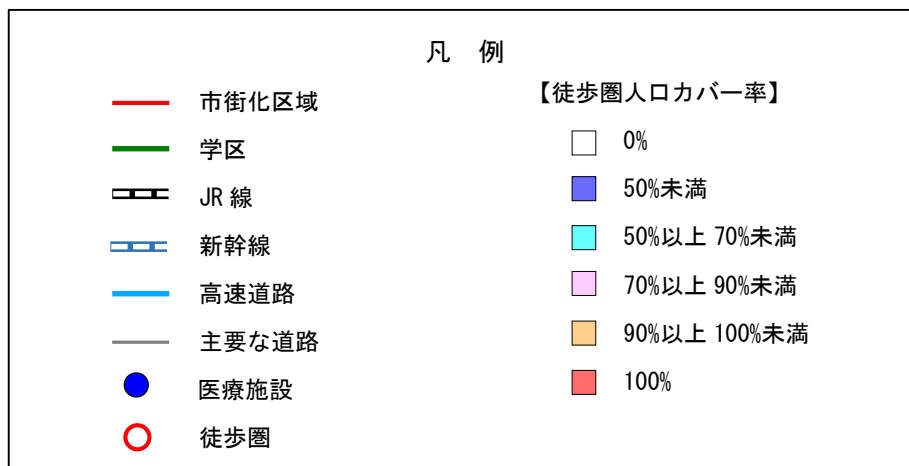
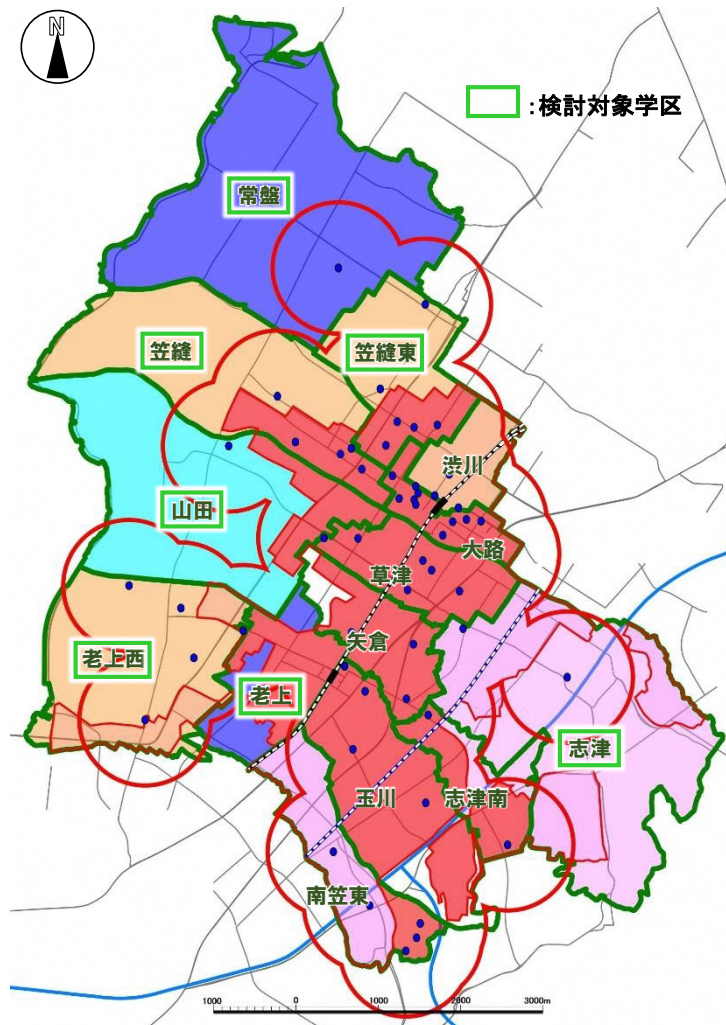


<生活利便施設>①医療施設

- 2010年(平成22年)時点における医療施設の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では68.9%となっています。
- 学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、常盤学区が34.1%と最も低く、次いで老上、山田学区が50%前後と相対的に低い状況です。

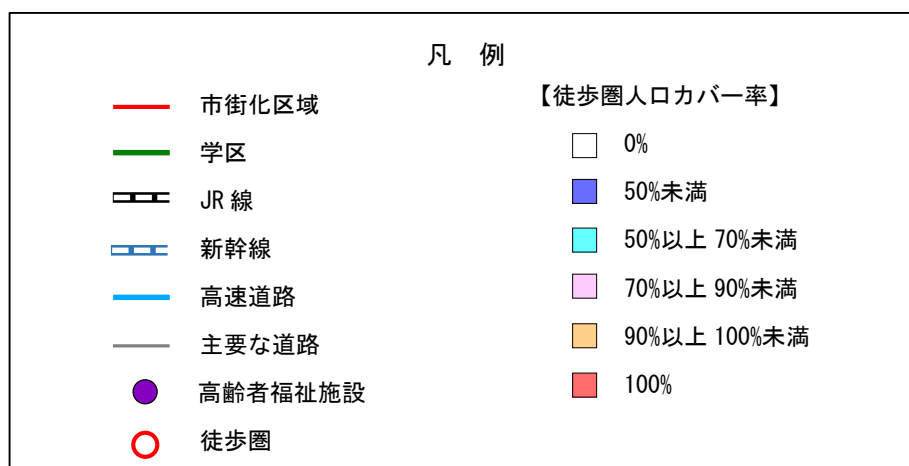
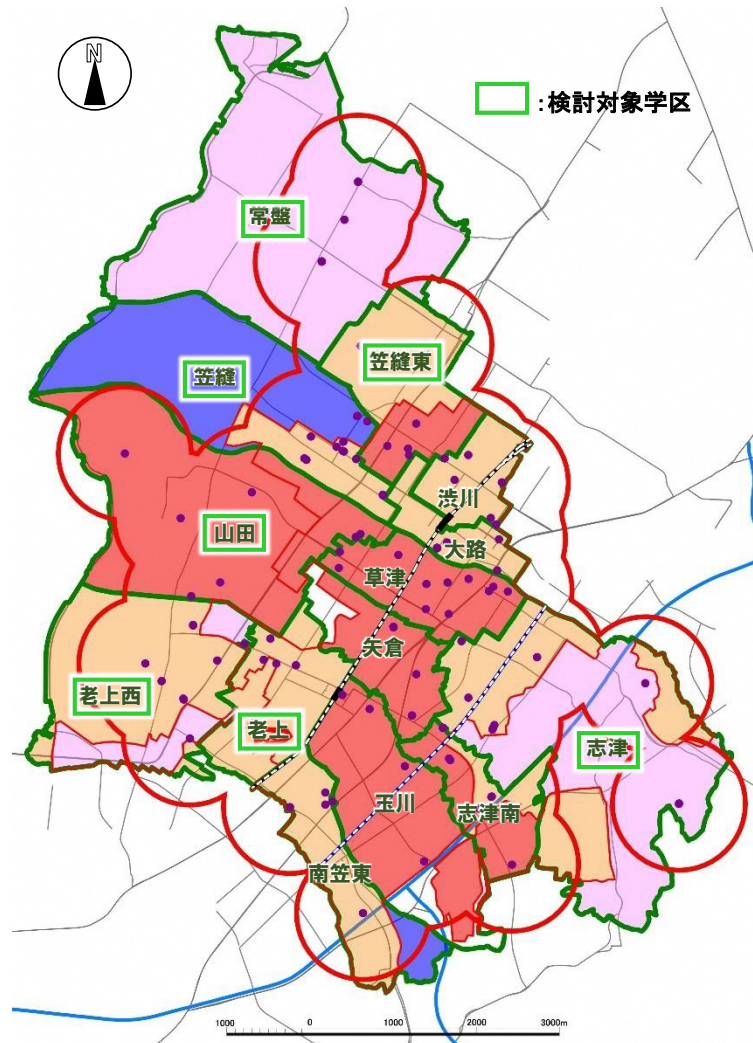
【学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)】(資料:2010年国勢調査に基づくメッシュデータ)



<生活利便施設>②高齢者福祉施設

- 2010年(平成22年)時点における高齢者福祉施設の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では82.2%で、他施設に比べると相対的に高くなっています。
- 学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、笠縫学区が43.4%と最も低く、次いで常盤学区が71.2%、志津学区が82.2%と相対的に低い状況です。なお、これら以外の学区は100%もしくは100%に近いカバー率となっています。

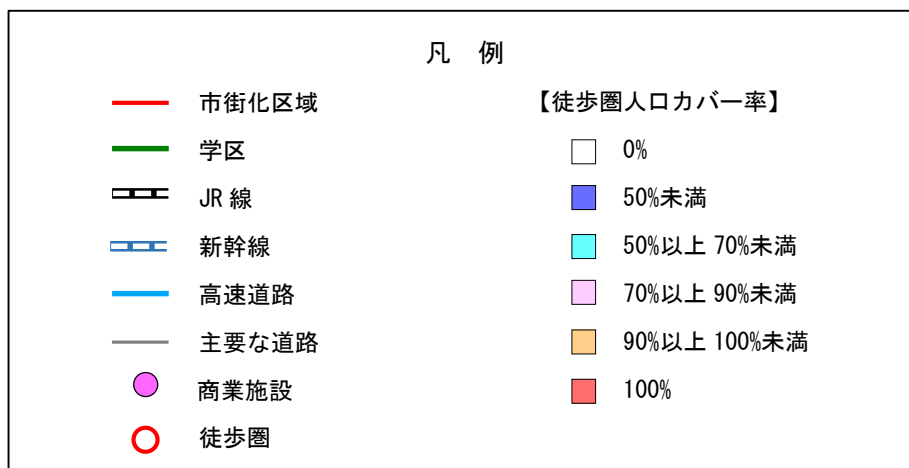
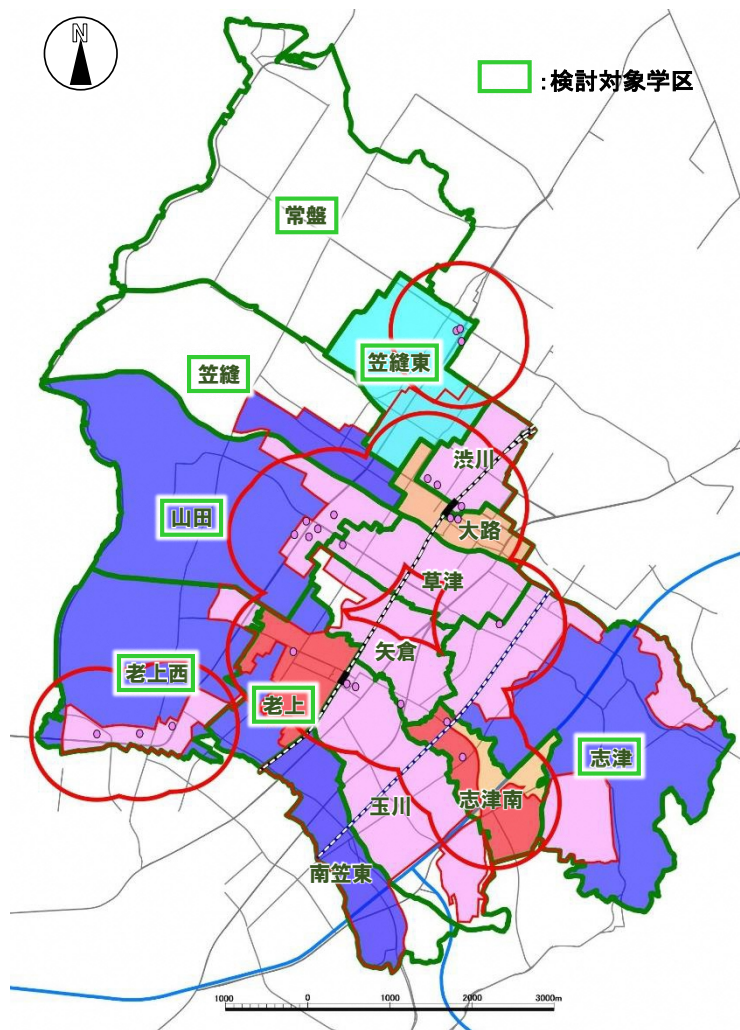
【学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)】(資料:2010年国勢調査に基づくメッシュデータ)



<生活利便施設>③商業施設

- 2010年(平成22年)時点における商業施設の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では23.0%で、他施設に比べると相対的に低い状況となっています。
- 学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、笠縫、常盤学区が0%、志津、山田学区が20%未満と相対的に低い状況です。

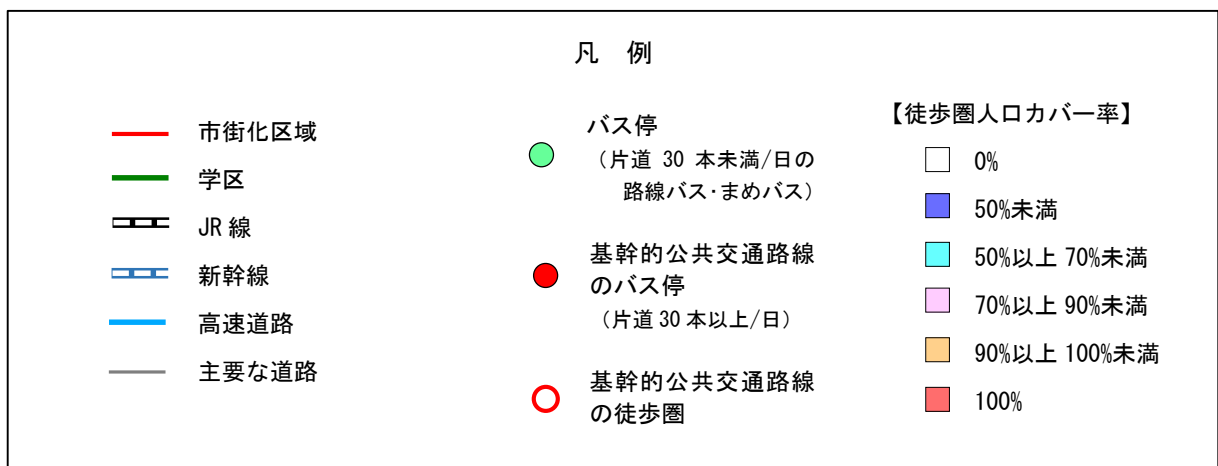
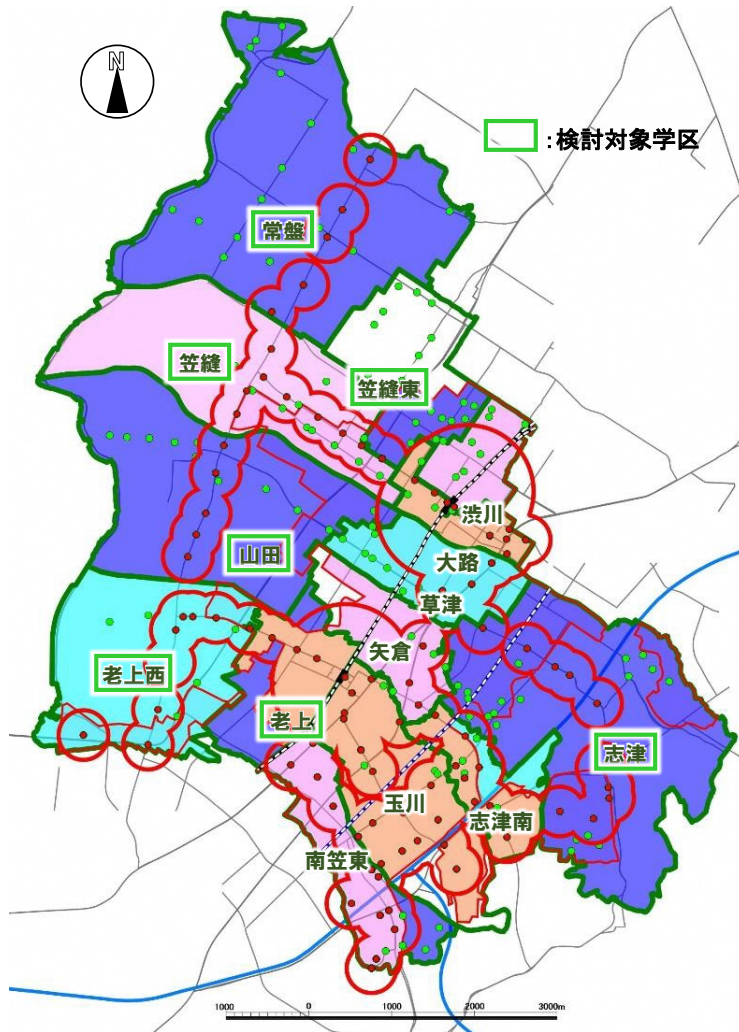
【学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)】(資料:2010年国勢調査に基づくメッシュデータ)



<公共交通>

- 2010年(平成22年)時点における基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では42.4%となっています。
- 学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、笠縫東学区が0%と最も低く、次いで老上、常盤、山田学区が相対的に低い状況です。
- 基幹的公共交通路線のカバー率が相対的に低い地域においては、まめバス等の補完公共交通により交通網が整備されています。

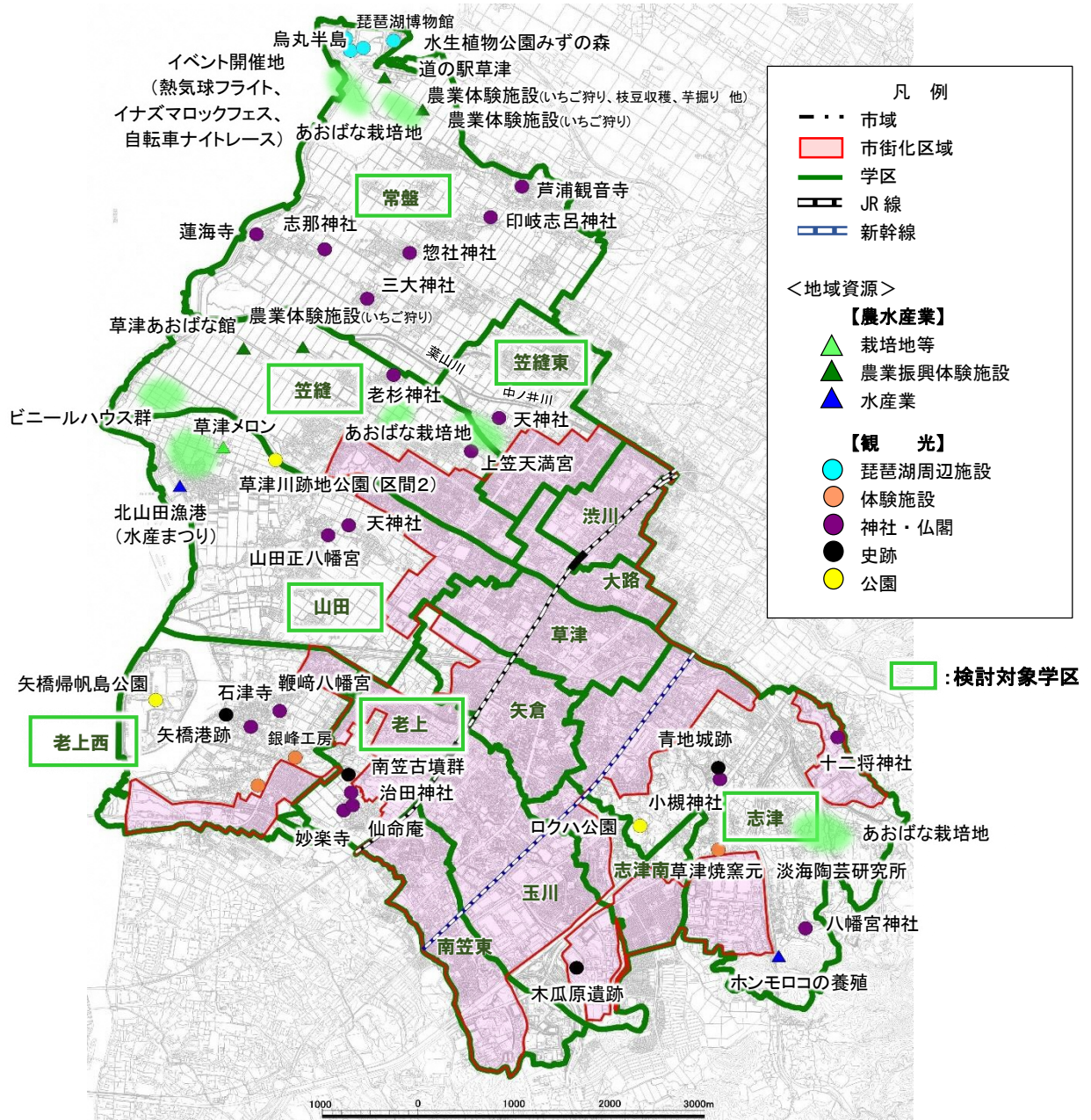
【学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)】(資料:2010年国勢調査に基づくメッシュデータ)



<地域資源>

- 地域資源とは、自然資源のほか特定の地域に存在する特徴的なものを資源として活用可能と捉え、人的・人文的な資源をも含む広義の総称です。昨今のご当地ブーム、まちおこし、地域ブランドに代表される地域活性化の試みにおいて、特徴・素材となるものを地域資源として定義し、「地域活性化の切り札」として活用する考え方が広がっています。
- 本計画では、地域の課題の解決および活性化につなげるために必要な地域資源について、関連計画や資源活用の取組み状況、内容等について文献調査を行い、また事業者ヒアリングや市民アンケート（平成29年度草津市のまちづくりについての市民意識調査）の結果を踏まえ、「①要素が多く存在すること」「②関連施策と有機的な連携を図ることにより地域の活性化に寄与できる可能性があること」を条件として地域資源を特定すると、「農水産業」「観光」の区分で大きく仕分けられる結果となりました。

【地域資源の分布図】（資料：草津観光ガイドマップ、草津ものづくり職人8人の挑戦／草津市観光物産協会、草津が生んだ奇跡あおばな／草津あおばな会、自然環境保全地区保護樹木／草津市環境政策課資料をベースに事業者ヒアリング、都市計画マスタープラン、まちづくり計画で挙げられた資源等を一部追加）



5. 地域が抱える課題の整理

本編 p.24~31

学区	人口等の状況			徒歩圏人口カバー率(2010年)			
	人口増減 2010年 →2040年	高齢化率		生活利便施設			基幹的 公共交通
		2010年	2040年	医療	高齢者 福祉	商業	
市全体	10.8%	16.6%	27.7%	91.6%	95.4%	62.6%	67.2%
市街化 調整区域	△3.0%	21.5%	36.0%	68.9%	82.2%	23.0%	42.4%
常盤	△	△	△	△	△	×	△
	△34.6%	22.4%	37.2%	34.1%	71.2%	0.0%	29.5%
笠縫東	△	○	○	○	○	○	×
	△13.5%	18.0%	28.0%	94.1%	95.5%	60.4%	0.0%
笠縫	△	△	△	○	△	×	○
	△4.9%	23.4%	41.7%	92.8%	43.4%	0.0%	70.2%
山田	△	△	△	△	○	△	△
	△37.2%	24.7%	41.9%	51.9%	100.0%	19.2%	34.7%
老上西	○	△	△	○	○	○	○
	14.0%	24.0%	52.7%	98.7%	98.9%	46.7%	68.0%
老上	○	○	○	△	○	○	△
	80.1%	19.6%	23.7%	45.3%	95.8%	45.3%	24.4%
志津	○	○	○	○	○	△	○
	35.9%	15.8%	23.2%	70.2%	82.2%	15.5%	45.1%

【○、△、×の定義】「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目
「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目

※この計画では、小学校単位で集計していますが、高齢者福祉施設の取組みについては、「草津あんしんいきいきプラン」において、中学校区（6学区）を日常生活圏域と定め、進めています。

6. 計画の基本理念

本編 p.32

草津市の上位・関連計画で示されている将来都市像やまちづくりの方針等を踏まえ、草津市版地域再生計画の対象である市街化調整区域における計画の基本理念を次のように設定します。

◆計画の基本理念

これからも、ずっと住みたい、住んでみたい健幸なまち

今後の超高齢化・人口減少社会を見据え、地域で生活するすべての人が、
便利に、快適に、健幸に暮らし続けることができる持続可能なまちづくりを目指します。

◆目指す将来像

草津市は、比較的コンパクトな都市構造となっていますが、市街化区域との位置的条件や人口構成、既存の生活サービス機能などは対象区域によって様々です。

このような各地域の特性を踏まえ、“まちなか”から比較的離れ、生活サービス機能等も不足する区域では、地域コミュニティの生活利便性を維持する拠点づくり等を推進するほか、“まちなか”に比較的近い区域では、公共交通の充実等による“まちなか”との連携を強化する中で、歩いて暮らせる快適な健康志向の生活環境を確保していくものとします。また、草津市には琵琶湖をはじめ様々な地域資源が存在することから、健幸都市を目指す本市では、健幸に関連づけての新たな魅力や付加価値を創造・発信することで、地域の活力を高めていく（多くの来訪者が訪れる、ものが売れる、事業が活性化）ものとします。

このようなまちづくりを推進することで、郊外部におけるコミュニティおよび生活環境の維持・活性化を図り、地域に住む人々が共に生き、共に支え合いながら、いきがいを持って安心して暮らせる『これからも、ずっと住みたい、住んでみたい健幸なまち』を創造していきます。